

# 第 1 編

## 総論

### ● 主な内容

1. 日本溶接協会の歩みの概要…………… 11
2. この10年の協会の活動の概要 …… 14
3. 今後の活動…………… 25
4. 産業の動向と溶接技術の変遷…………… 26
5. 社団法人日本溶接協会この10年の歩み  
(年表)…………… 31  
溶接この10年の歩み  
(カラーグラビア)…………… 35

## 第1編 総論

---

社団法人日本溶接協会は今日創立60周年を迎える。本編ではまず、60年史制作の趣旨と、協会発足時から現在までの組織と機構の変遷を簡単に紹介し、このあとは1999年から現在までの協会の活動の概要を記述している。

協会活動の目的は「溶接に関する技術の向上及び普及を図るとともに我が国産業の健全な発展に寄与することを目的とする」と規定し、この目的を達成するため定められた10項目について個別に記載している。

溶接に関する技術の調査及び研究を目的とする専門部会と研究委員会についてまず記述し、続いて学協会及び研究機関との協力、行政官庁等に対する意見の具申、工業標準の作成、教育及び表彰、技術相談または指導、認証及び認定、新聞、雑誌及び図書の編集並びに発行、国際化の進展について10年間の活動を細かく述べている。

続いて産業界の動向と溶接技術の変遷について記載している。1999年からの10年間はバブル経済の崩壊に始まり、2008年にはアメリカの金融危機に端を発した世界同時不況に至った。現在は経済の回復が急務となっている。

溶接技術に関してはこの10年間溶接材料、溶接ロボット、レーザ加工機関係が大きく増加している。また、研究開発動向としてはレーザと摩擦攪拌溶接（FSW）が大きく発展したときでもある。

なお、この10年間で日本溶接協会内の特記すべき事項としては、溶接情報センターの設置（第6編）、アジア溶接連盟（AWF）の設立（第2編5国際活動委員会）及び支部制度から指定機関制度への移行（第9編）が挙げられる。その詳細については括弧内に示した各編・項を参照してください。